

**令和7年度若者・大学・企業等協働・連携促進事業  
～MEET UP EVENT IN TOYAMA～実施報告**

|             |   |
|-------------|---|
| 事業名         | 若者・大学・企業等協働・連携促進事業  |
| 目的          | NPO、大学、企業等が地域や社会の課題解決に向けて、多様な主体が協働・連携して社会貢献活動に取り組めるように後押しすることを目的とする。  |
| プログラム       | <p><b>(1) 基調講演</b></p> <p>「居場所と役割をつくる協働 みんなが担い手となる社会へ 災害から学んだ市民力と共助の精神」</p> <p>講師 認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸 中村 順子氏</p> <p><b>(2) 事例発表</b></p> <p>&lt;団体事例発表&gt;</p> <p>① with life.kyosei.<br/>荒城 和恵氏</p> <p>② 環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)<br/>堺 勇人氏</p> <p>③ 富山グラウジーズ<br/>船田 達宏氏</p> <p>④ 株式会社野上緑化<br/>飛世 裕香氏</p> <p>&lt;学生事例発表&gt;</p> <p>① filプロジェクト（富山大学都市デザイン学部×富山市民プラザ）</p> <p>② 富山国際大学 上坂ゼミ×上滝みらいミーティング</p> <p>③ 富山大学院生×富山県（防災課、デジタル化推進室）</p> <p><b>(3) 参加団体紹介</b></p> <p><b>(4) 交流タイム・相談会</b></p> |
| 開催日時        | 令和8年3月13日（金）13：00～16：30（ブース・パネル展示は11:00～16:30）  |
| 開催場所        | 富山大学五福キャンパス 金森産業ホール・スギノマシンラウンジ  |
| 参加人数        | 98名   |
| ブース出展<br>団体 | <p>アルコット株式会社</p> <p>株式会社サカイ引越センター</p> <p>富山第一高校ボランティア委員会</p> <p>株式会社スギノマシン</p> <p>富山大学 with 共生プロジェクト</p> <p>株式会社野上緑化</p> <p>とやま子どもの権利条約ネット</p> <p>株式会社富山市民プラザ</p>   |

子ども市役所  
社会福祉法人射水万葉会  
富山大学スマート・ポリネーター  
富山市立中央児童館  
一般社団法人防災クリエイト JAPAN  
大和リース株式会社富山支店  
特定非営利活動法人ここらいふ  
明治安田 富山支社 富山南営業所  
富山大学都市デザイン学部地域 PBL  
ネッツトヨタ富山株式会社  
しかんじ棚田を護る会  
特定非営利活動法人 RACDA 高岡  
株式会社アイザック  
富山県県民生活課

事業内容

**(1) 交流会スタート**

県から挨拶

**(2) 基調講演**

**「居場所と役割をつくる協働 みんなが担い手となる社会へ 災害から学んだ市民力と共助の精神」**

認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

中村 順子氏



### (3) 事例発表

#### <団体事例発表>

#### ① 「高校とつくる！新庄北の地域共生」

with life.kyosei.

荒城 和恵氏



#### ② 「ラジオ・ショッピングモールのコラボで若者の声を地域に届ける

～富山市 SDGs ユースミーティング～

環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま)

堺 勇人氏



- ③ 「プロスポーツチームが専門学生と取り組む多世代交流の場『まちなか食堂』」  
富山グラウジーズ  
船田 達宏氏



- ④ 「公園からはじめる地域協働ーインクルーシブプレーパークという実践ー」  
株式会社野上緑化  
飛世 裕香氏



<学生事例発表>

- ① 「学生シェアハウスを核としたまちなかの活性化事例」  
fil プロジェクト（富山大学都市デザイン学部×富山市民プラザ）
- ② 「地域交通『あいのり大山』の活性化を目的とした事例」  
富山国際大学 上坂ゼミ×上滝みらいミーティング
- ③ 「富山県内における富山県デジタル防災マップを活用した防災井戸の見える化事例」  
富山大学院生×富山県（防災課、デジタル化推進室）



#### (4) 参加団体紹介、交流タイム・相談会

ブース出展団体による、活動紹介の後、参加者が主体となる交流タイムや相談会が始まりました。



交流タイムでは、自己紹介や名刺交換が盛んに行われていました。また、それぞれの団体の悩みを相談し合う様子も見られました。お互いの活動について、より深く知ること  
で、協働のきっかけが生まれました。



